

三千種類の製

品になり浸透

アスベストの恐怖、本に

くつしの中の発がん物質として注目されているアスベスト(石棉)。このほど日本消費者連盟から発行された『グッドバイ・アスベスト』(川村曉雄著、四〇〇円)は、三千種類もの

製品となって、生活のあらゆる場面に浸透しているアスベストのこわさを、余すところなくあはき出している。

同書によると、一九八五年の日本のアスベスト使用量は二十六万トンで、ソ連についで世界第二位。七〇％が建材に使われているほか、使用量が多いのは車のブレーキやクラッチ、絶縁

材、断熱材など。家庭内でも魚を焼く焼き網に使われている場合があるほか、天井や壁板などにも。

アスベストはアスベスト肺や肺がんなどの肺の病気や胃がんや結腸がん、中皮腫などの原因となる。空気中にこまかい粉じんとして浮遊しているアスベストを常時吸入するのが危険だが、安全量は少ないとい

ている。

環境庁は「環境中への排出を抑制し、長期モニタリングが必要」としている。

が、環境基準は作成されていない。なお日本消費者連盟は電話03・711・7766。